

モンゴル四方山話

(日本とのかかわり今とこれから)

73期 増田忠義

サンコウマーケティングモンゴリア (顧問)

内容

1. モンゴルの概要
2. 日常生活
3. 政治・経済体制
4. 歴史
5. 文化
6. 日本とのかかわり

1. モンゴルの概要

イ 面積と位置

日本の約4倍、緯度は、モンゴル中央部で樺太の南端くらい
平均海拔は1600Mくらい、
首都ウランバートルは1400Mくらい、
太平洋から2400キロの内陸

ロ 地形と気候

大きく4つに分かれる

- ・ウランバートルを取り巻く**草原** (皆さんのイメージのモンゴル)
- ・北方面、ロシア国境に沿っての**ツンドラ地帯**
- ・西方 **山岳地帯** 4000M級の山に囲まれ、大きな湖沼がありスイスより風光明

媚といわれる

- ・南部 **ゴビ砂漠地帯**、われわれの感覚の砂漠でなく荒地。緯度も海拔も高い内陸であることから冬は酷寒、ただし夏は日本以上に暑い。冬は長いが四季は感じられる。雨量は年間を通し少なく乾燥している。保湿能力はないため一度掘ると砂地になる。

ハ 政治・経済体制

民主主義国家、大統領制、一院制、国会は4年任期で議員数76人、政党は民主党と共産党、**政治への関心は高く選挙は投票率は80%以上**、(ただし、お金で左右される?)
経済は20数年前から自由主義経済に移行。

中国、韓国、とくに中国に牛耳られる。地下資源で国家財政はまかなわれる。
消費税10%、所得税10%(個人も法人も)

二 言語

モンゴル語であるが、辺境では中国語、ロシア語、カザフ語、西アジアの言語が話され、北方のトナカイを飼う種族は独特の言葉を話す。
文字はロシアのキリル文字を使うが、近年昔のたて文字を教えるようになった。
今まで文字を数度変えている不思議な国である。

ホ 人口、民族

人口は昨年の国勢調査で約280万人、其のうち100万人を超える人がウランバートルにいる。
遊牧民が年々減少している。
民族は多種多様で少数民族にが分布し、数十種族に分かれる。
ハルハ族が75%をしめるが、又細かく分類される。
第二の都市はダルハンで人口は約8万人、県は18に分かれるが中心の町は2, 3万人以下。一つの県が概ね一つの民族を代表するが、それぞれの民族は概して仲が悪い。

2. 日常生活

イ 食べ物、飲み物

基本的には肉が主体。羊、ヤギ、牛、馬、豚、鶏、らくだ、(トナカイ、狼)

穀物は小麦はほぼ自給できる。**野菜**は農薬たっぷりのものを中国から輸入(近年奇形児が増え、国産に力を入れている)

牛乳はインフラの関係で中国、ロシアから輸入。(少しずつ国産が増える)

日本でジンギスカン焼きで**肉料理**は焼くイメージがあるが、**ほとんどが煮る料理**。ボーズ(水餃子のような)、ホーシュロ(平たい肉入り揚げパン)

調味料は塩のみ。味はまずまず。食べる量はものすごい

飲み物は馬乳酒が有名。アルコール度数は3，4度で本来遊牧民の夏の主食

夏は肉が貯蔵の関係で食べられず、これを常食とした。

日本人には飲みづらい。お酒はアルヒといい12%くらい。独特の匂い。これらはノーサンキュウだが、ウォッカはうまい、本場ロシア産よりグレードは上。ビールはチェコ、ドイツの技術で作られこれもうまい。

毎食の食べる量、飲む量は半端でない。お金のすべてを使う。

ロ 交通

街中の道路は広いが舗装は悪く、でこぼこ。地方へは幹線以外道路はない。(地形を見ながら、星を見ながら目的地の予想をする)

俗に、道路の幅の半分はモンゴル人が食べ、厚さの半分は中国人が食べるという。実際に道路工事に使われるのは予算の4分の1程度となり、すぐに道路が傷む。

JICAの援助で作られてウランバートル市内の幹線道路は10年以上経つても良好な状態。

ウランバートルは交通規則はないと同じで誰もルールを守らない。

赤信号も関係ない。逆走も当たり前。近年酔払い運転は厳しい。

数年前は韓国のベコベコの中古車がほとんど。今は日本の中古車で程度はいい。金持ちにはベンツ、ベンビー、レクサスのランクル、ハマーのジープを乗り回す。運転は荒っぽいので500メートル走ると交通事故を見る。又運転免許は取るものでなく、買うものです。

ハ 教育

教育程度は高く、遊牧民を含め、教育熱心。息子たちは高学歴をつけさせ、いい生活をと願うため。

少学校4年制、中学校5年、高校2年、大学4年で国立大学は7校。

規模は大きく、モンゴル大学、科学技術大学で学生数はそれぞれ2万人。

ただし、入学、進級、卒業、成績表**すべてお金で解決がつく**という話(先生、職員等への御礼)。

ニ 郵便

配達はしない。地方では住所表示は大きな町以外ない。

ウランバートルは私書箱制度。あとは電話で連絡し、取りに来させる。

ホ スポーツ

盛んなものは相撲、サッカー、バスケットボール、等でモンゴル相撲は夏のナーダム(夏祭り、各都市でおこなう)を中心にウランバートルでは冬もおこなう。とにかく力士はみんな強い。白鵬はモンゴルではどのくらいでしょう。

ナーダムでの競馬も人気(最長40キロ弱を45分くらいで走りきる)途中車で併走したが50キロを超えていた。

へ 宗教

約100年前、ソ連の社会主義体制になってから**宗教は禁止**され下火であったが、近年チベット仏教が復活し、盛んになってきている。

もともと**宗教心が厚く**、熱心で僧侶は葬儀以外に祈禱、御祓い、アドバイス、等もおこなう。

ほかにある種族のシャーマンも隠然たる影響力を持つ祈禱がおこなわれる。

ト 治安

ご多分に漏れずよくない。夜の一人歩きは厳禁。昼間も人気のない場所も同様、又酔っ払いは怖い。(ナイフを持っている)

3年前からパトカーを50台、交番代わりに1, 2キロおきに配置(昼夜)してかなりよくなった。

チ おしゃれ

男も女性もおしゃれで**男は飲み食い、女性はおしゃれに有り金すべてを使う**。貴金属をいつも見にまとう。

一週間に同じワイシャツを2度着ると日本人は貧乏ねといわれた。**今までは高級品は韓国製**であったが、**最近はヨーロッパのブランドの店**が急速に増えた。

デパートにも製品があふれており、それがよく売れている。

リ 消費

とにかくよくお金を使う。**貯金はゼロ**で三日何とかしのげればいいという感覚が抜けない。宵越しの金は持たないではなく**財布の中にお金があると落ち着かない**ということかな？

ヌ 風土病

寒い土地柄で細菌のよるものは少ないが、**家畜からの感染**は要注意。

狂犬病の被害が時々言われる。**動物には触らないのが一番**。

人間からは**肝炎が風土病**で40%のモンゴル人がキャリアーといわれる。

A, B, C型肝炎でとくに**C型**はかかると厄介。モンゴル人はあまり発症しないが、免疫のない日本人は危ない。**接触しないことが一番**。

ル 医療

国立医科大学があり、学生数は看護部門、地方の分校も入れ6000名。

レベルはあまり高くなく、副学長に会いに行ったとき、中国の病院にいてのこと。日本の経済援助で最新の医療器械がいくつも置かれているが、壊れてそのまま。もったいない。医療費は簡単な治療は基本的に無料。

外科手術は絶対してはいけない。最近日本の医療機関が進出する。

ヲ 身体の体型

われわれのイメージはずんぐりむっくりで、太っている。40歳以上のひとはそのような体系が多い。最近の都会の若者は平均身長男180弱、女165前後。

日本人より高い分だけ足が長くスタイルはいい。年をとるとどうなるか興味がある。今までは子供のころ仕事で水汲みをしたので、背が伸びなかった？

ワ 子供の仕事

家の中の掃除、小さい子供の面倒見、田舎では水汲み、等日本ではびっくりするほど用事をさせられる。親、年長者に対する礼儀はよい。しつけはよくたたく。水汲みは毎朝4、5キロの水組み場から5歳で5キロ、10歳以上で20キロの水を運ぶ。女の児も同様。女子社員と腕相撲をして勝てない。

カ 記憶力

驚異的にすばらしい。携帯番号は100くらいは暗記できる。学校でも黒板の字はノートに書かずその場で覚えさせる。文法が日本語と似ているため、単語を覚えれば日本語は上達が早く、おおよそ1年で意思の疎通は問題ない。

ヨ 娯楽

家族では映画、演劇鑑賞が一般的。映画はよくいく。レベルの高い人にはバレーも人気が高い。若者を含め、食事のあと、お酒のあとは必ずカラオケに行き深夜まで過ごす。ディスコも盛ん。休日は親子ずれで遊園地、郊外へピクニックに出よく出歩く。

タ 冠婚葬祭

チベット仏教が盛んになり、葬儀は立派。ウランバートルを除き、土葬が主、鳥葬もある。ウランバートルで火葬場への隊列に遭遇すると大変。車列が4、50台も続き、速度は20キロくらいで進むが、追い抜けない。

飛行場の方面に焼場があるため、一度危うく飛行機に乗り遅れそうになった。

冠婚はこれも盛大で社員の結婚式に出る機会があったが、初日は親族一同、2日目は友人、近所の人、3日目がわれわれ会社関係でゲルに男女あわせて20数人が参列。山盛のご馳走があり、ビール、馬乳酒、で乾杯、乾杯のあとウラッカが出される。宴会は朝の7時まで続いたとのこと。

飲まれたウラッカの数は何本とございますか？

ナ。ナ。なんと53本とのことでした。(これくらいは当たり前とのこと、アル中毒になるわけです)

冠婚葬祭に限らず、モンゴル人は集まって飲んだり、食べたりが大好きで、暇を見つけては集まって騒ぎます。情報が早いのは其のせいです。

3. 政治・経済体制

イ 政治は20数年前ソ連の崩壊で民主主義体制になった。

当時の権力者が国外逃亡したため、移行時に流血その他の混乱はなく、国有財産は官営事業を除きすべて分配された。公務員は住んでいた官舎をもらい、工場、いろいろな施設を手に入れた人がその後、大きな財を成す元となった。社会主義の弊害の賄賂等はなくならず、近年経済の拡大、地下資源の開発、外資の導入等でますます規模が大きくなってきている。

政治家、官僚等は年収一億トグルグ以上は多い。(しかもネットで)

ロ 徴兵制

国民皆兵でロシア、中国との長い国境線を持ち、**防衛は大変**。

ロシアには親近感はあるが、**中国には敵対心が強い**。

ただし、40数名いる男子社員で兵役についた人は4、5人しかいない。

これまた不思議。海外派兵に協力的で派兵式典に出くわしたが、大男たちで肉弾戦ではアメリカの海兵隊も勝てないのでは。

ハ 地下資源

従来は銅の採掘で**国の財政をまかなってきた**が、(ひとつの銅鉱山の法人税で国家予算の半分をまかなっている)最近この数倍の規模の銅鉱山の開発が進み、ほかに金、鉄、レアメタル、レアアース、石炭(品質がいい) **ソ連に掘りつくされたウラン鉱**が数年前戈壁砂漠で**三菱商事の手**で開発が始まった。

ある程度平等に分配されれば**モンゴル国民は働く必要がない?**と思われるがさてどうなるか?

地下資源ではないが、昔海になったり、隆起したりで恐竜の化石の宝庫といわれ、今でも地表で化石を拾うことが出来る。博物館にはほとんど原型に近い恐竜が展示されている。必見です。

ニ インフラと産業

モンゴルの泣き所は内陸で港を持たず、輸出は中国を通過するため、スムーズに行かない。モンゴル鉄道(シベリア鉄道と同じ広軌)中国は世界標準(日本の新幹線と同じ)で国境で積み替える必要がある。

産業振興に力を入れようとするが輸出はインフラの点でも難しい。

ホ 就業と遊牧

何年いても**分からない**ことは景気がいいのか悪いのか、地下資源の開発のおかげで外資がなだれ込んできて、**お金がうなりを立てて渦巻いている**ことは分かる。就職率がそれ

ほどいいとは思えない。特定のいい企業に就職したもの以外は**すぐにやめる**。又程なく就職するということで失業率は計算できない。

食い詰めると田舎の遊牧民の中にまぎれて数ヶ月はすごすという具合、農耕民族と遊牧民のDNAの違いで、いやならすぐ別の場所へと変わり「一所懸命」と概念がまるでない。当然会社への**忠誠心は何のこと**という按配

へ 仕事と規律

日本のイメージで取り組むと気がおかしくなる。

約束はあまり守らない、遅刻は当たり前（2時間以内は遅れたことにならない?）、借ったお金は返さない（ないからで通用する）、よく休む

建設現場では給料が入るとなくなるまで出てこない。

祝日は年間6回ほどだが、新年、旧正月、ナーダムのころは皆さん会社の決まりと関係なくそれぞれが独自に休みを取り、夏は1ヶ月ほど出てこない。

遊牧民のころから旧社会主義を経て今のモンゴルがあるわけで、其の慣習はなかなか日本の標準に当てはまらない。カリカリすると負けです。

ただし一部の人は外国留学、外国での就業の経験があり、優秀でこの人をいかに取り込むかがポイントです。

ト 法律とルール

法整備はかなり進み、国際的レベルに近づいている。モンゴル大学は名古屋大学法学部と深い連携を持ち、リード役になっている。

法廷闘争になると外資は不利で裁判官までモンゴル派となりまず勝てない。

国も平気でルールを変え、日本との例年の国家経済会議でも議題にあがるがなかなか日本の思うようにはならない。

チ 建設ラッシュ

数年前から建設ラッシュが続き、マンションが林立している。出資は中国、韓国、地元で、大半はで売れているとのことだが、夜、明かりがともっている部屋は半分にも満たない。投資のためと思われるが、売れないといつバブルの破裂になるか？この1, 2年はビジネスビルの建設が多くなり、中心地に20階以上のビルが2, 30棟建設が進んでいる。

リ 金利

一般国民が貯金をするように（貯蓄性向ほとんどゼロ）定期金利は15%くらいであるが、国民は銀行はお金を借りるところで預けるところと考えていない？

当然貸出金利もべらぼうに高く、商売をするにも、家屋を買うにも不可能に近い。力のある企業は海外からの融資に頼る。

ヌ アングラ経済と物価

何年いてもよく分からないのは**アングラ経済の規模が大きいせい**でしょうか？

地位の高い人はほど、アルバイトに精を出します。大学の先生は給与の何倍も稼ぎますし、官僚は午後はまず役所にいません。

一般の人も給料だけではこの数年の物価高のため、生計を維持できず、バイト、バイトです。夫婦との稼ぎが普通で幹部クラスの**亭主の給料が5万円**とすると1ヶ月の**生活費は約12、3万円**くらいでしょうか。

奥さんが4万円くらいを稼ぎ、残りはアルバイトでやりくりします。

マンションの家賃は付き3万円くらいで、2家族くらいが同居してシェアしています。マンションの価格は中古で400万円くらいでなかなか手が届きません。

格差はものすごく、近くに出来た私立の小学校は年間授業料が何と80万円です。毎朝運転手つきの高級外車で通学しています。

又、大学も私費で外国留学させる家庭が多く、費用は大変でしょう。ただしこれには裏があって、外国で口座を開いて資産をどんどん外国に移すためのようです。

4. 歴史

〔モンゴルの人からの口述です。雑駁で恐縮です〕

歴史の痕跡は新石器時代にさかのぼられるが、9世紀ごろいくつかの部族のうち今のトルコ系遊牧民がモンゴル系遊牧民に破れ、西方に逃げ途中で土着を繰り返しながら、トルコまでたどり着く。〔トルコ語ともモンゴル語の文法は似ている〕

その後も各種族の群雄割拠が続き、1206年テムジンがハーンに推薦され**チンギスハーン**となり、モンゴルを統一する。

彼は法整備、軍事、政治体制の整備を行い、10戸、100戸、1000戸の軍事組織を整え、中央アジアに進出。

あとを継いだオゴディはハラホリンに首都カラコルムを作る。その後も軍事的侵略を続け、中部ヨーロッパまで支配を広げる。

征服地を各王族に分配し中国地方は**フビライ**が**大都〔今の北京〕**に**首都をおき元**と称する。

東南アジアからインド方面まで進出し、**日本にも触手**を伸ばす。

後年内乱が続発し、**明に破れモンゴル高原**に追いやられる。

その後も群雄が割拠し内乱は絶えず、**ダヤンハーン**が統一するが其の死後分裂し、満州族の清が内モンゴル、外モンゴルも支配下に入れる。

清の時代は圧政や大きな賦役のため、**国内は疲弊し、経済は困窮**する。

清は人口を増やさせないように、優秀な人は僧侶にしたり〔結婚をさせないため〕病气もちの女性を多数送り込み、一時は70万人まで人口が激減したこともある。〔余談ですが、エイズに対しては相当神経過敏です〕

これらの圧政が**モンゴル人の中国嫌いの遠因**かも。

社会主義時代のモンゴル

清の末期に内乱が起こり、ロシアの援助で分離を画策する。

辛亥革命のとき、独立を宣言し、全モンゴルの統一を目指す。ロシア、中国の圧力で外モンゴルのみ、自治が認められる。ロシアの援助と影響を強く受けたが、ロシア革命で又中国に占領されたが、新生のソ連の援助で独立し、共和制になる。ソ連の援助の下、社会主義国として発展するが、恐怖政治が続き、平坦な道ではなかった。

1939年**関東軍の侵入をソ連の助けで撃退**する。(ハルハ河戦争)・(日本ではノモンハン事件)
ソ連の対日宣戦布告に伴い、1945年対日宣戦布告をする。

1961年国連に加盟。翌年コメコンに加入して東欧との関係を強化する。ソ連のペレストロイカの影響で人民革命党は独裁を放棄し、大統領制、議会主義へと転換する。

経済面では国有財産の分配、国営事業の民営化が進み、中国との関係が正常化される。

5. 文 化

イ 音楽と民謡 [ホーミン]、楽器

ロ 絵画

ハ 文学

ニ 舞踊 [バレエ]

ホ 映画等

6. 日本とのかかわり

モンゴルと日本との歴史的かかわりはフビライハーンによる2度の元寇以外、19世紀末までまったく交流はなかった。

[奈良時代に入ってきた馬がモンゴル産といわれているが正確にはわからない]

日清、日露戦争後、日本が食指を伸ばし、ハルピン特務機関がいろいろな工作をし、関東軍がモンゴルへ侵入し、ハルハ河戦争をおこす。[ノモンハン事件]

1945年対日宣戦布告をし、戦後シベリア抑留者の一部約1万4千人を労役につかせ、10%以上の人々がモンゴルでなくなった。

〔ウランバートルの郊外にりっぱな記念碑があるし、あちこちの町に墓地があります〕

1972年国交が樹立したが、目立った交流はなかった。

1989年自由主義体制になるが、旧ソ連の援助がなくなり、その後10年くらいは経済は破綻状態で国民は悲惨な生活を強いられる。

この間、日本のODAのおかげでモンゴルは生き延びることが出来る。

このときの日本の援助を指導者から一般国民まで感謝をし、生涯忘れることはないと言われ、誰からも言われる。

其の言葉がうそでないことは3・11の大災害のとき、モンゴル国民がこぞって義捐金を自発的に集め、祈ったのです。

イ 対日感情と日本のありかた

モンゴルは誇り高い民族で、自国を愛し、テレビでも1分間に一度はモンゴルという言葉が流れる。地下資源開発のため外資は導入されても国内工業が発達しておらず、中国、韓国に首根っこを抑えられている。

自国の経済が地下資源依存から脱却するため、工業の勃興を目指し、其のお手本を日本においている。

日本が戦後の混迷から高度成長した姿を自国の模範ととらえ、学問の普及、工業技術の高度化、勤労意欲の向上、生産体制の効率化、インフラの整備等あらゆる面で世界の先進国になった実績を評価し、尊敬をしている。

ひるがえってわれわれは、何もないときから物質面で豊かになるまで、国民全員ががんばって仕事をしてきたのに、世界のどの国から尊敬され一目をおかれ、好かれる国になったといえるのでしょうか？

私は日本人を尊敬してくれる数少ない国のモンゴルがわれわれが培って持っているいろいろな有形、無形の財産を利用してもらい、日本が世界に何をすれば存在感のある国として再度認めてもらえるかを学びなおす機会になればと思います。

ロ 教育の相互交流

次代を託す若者への相互理解のひとつとして、モンゴル、日本の大学の業務提携をして教える人、学ぶ人の相互交流を広め、文化、学問、その他の理解を深める事業を推進したいものです。

日本の先端技術、学問の移転、日本の若者に付きまとう閉塞感の打破のためモンゴルの若者のエネルギーに触れ、新たな息吹を感じてもらいたいものです。

ハ 悠久の国モンゴル

果てしなく続く、青い空、地平線までの草原、満天の星空、お目にかかれなくなった天

の川、子供たちの無邪気の笑顔、言葉は分からなくても人のよさそうな遊牧民の微笑み。
どれをとっても何を見ても今の日本にはないものです。
町から離れると何にもありません。音もありません。人もいません。
何日かいると多少人生観が変わるかも。
今までの人生で感じられなかったものが見えるかもしれません。

一度、お越しく下さい

追加

1. 貨幣はトグルグといます。

5年前は1円が10トグルグ、今は1円が17トグルグ〔円の値上がりとトグルグの下落〕。

2. モンゴル語は難しい。

母音は日本語は5つ、モンゴル語は7つ。6つ目と7つ目の発音が日本人には出来ない。
今までモンゴル語の上手な日本人はいないとのこと。

3. 挨拶の習慣はあまりない

「こんにちは」と「さよなら」くらい。突然出かけるし、帰ってきてもただいまともいわない。〔今までの羊が相手では挨拶もないのは当たり前？〕

4. パレーのレベル

世界で一級品。機会があればぜひご鑑賞を

5. アクロバットとサーカス

これも世界トップクラス、全世界で活躍している

7. 人なつっこい

男も女も親近感を態度で表す。ハグの連発。日本の男は時々勘違いをするが、若い女性が自分を好きとは限らない。

8. 馬の能力

モンゴルの馬は持久力があり、スタートダッシュはサラブレッドに負けるが100メートル先からは負けない。30キロメートルを平均時速40キロで走ることはヨーロッパの馬には出来ない。

9. 弓の強さ

射程距離でモンゴル軍は20%上回る。

10. 格闘技

個々の肉弾戦でモンゴル人の体力、凶暴性？は白人の比ではない。

11. 食料の運搬

遠征で古今東西これが頭の痛い処だが、モンゴル軍の主食料の羊は自分で歩いてくれる。

モンゴル最大の行事のナーダムでこの8. 9. 10の競技が一番の人気

.....

おわりに

この四方山話は、茲五年有余のモンゴルでの往来・滞在・及びビジネスを通じての体験や口伝を基に纏めたものです。

多々 誤りもあるかとおもいますが、ご容赦・ご寛容ください。